

第2学年 生活科学習指導案 (幼年教育推進に向けて)

1 単元名 生きもの大すきⅡ 「わたしたちの生きものランド」

2 指導にあたって

〈2年生〉

こんな子どもだから

こんな子どもに

- 本学級の子どもたちは、1学期に、教室で、カタツムリ、アリ、ヤゴ、カブトムシの幼虫を飼っていた。生き物の成長の変化を見つけると、すぐに教師に知らせに来る姿が見られ、生きものに対して興味・関心を示していた。しかし、お世話が長続きしないという子どもがほとんどである。また、生き物を触るのに抵抗がある子どももいる。
- 生き物の生態や成長の過程を互いに交流する中で、言葉や絵で気付いたことを表現することができている。しかし、自分なりの方法で表現することができていない。
- 生き物の探し方や飼育の仕方についての気付きはあるが、生き物の様子や特徴への気付きは、あまりみられない。
- ◎ 学校探検で、1年生のお世話をしたり、教えたりしたことに、喜びを感じていた。しかし、保育園児との交流をもったことはない。

- 生き物の成長に合わせた世話の仕方を工夫し、大切に育てながら、生き物の成長を実感し、喜びを味わうことができる。
- 生き物の変化、成長の様子を紙芝居やペープサート、実物を見せるなどの自分なりの表現方法で、自分の伝えたいことを、園児達に分かりやすく発表することができる。
- 採集した生き物の育て方を進んで調べ、生き物の生態や成長していた場所の環境について考えることができる。
- ◎ 園児たちと触れ合うことで、自分の年長さんの頃を思い出し、お世話する喜びを感じ取ることができる。

〈保育園児〉

年長（5歳児）の子どもの実態

- 園庭の花壇や植木の中に、手を差し入れて虫取りをしている。
- 虫が好きな子どもたちは、図鑑や絵本にも興味を示して、数人ずつ集まって話をしている。
- 幼虫を見つけると、「これ〇〇になる」と成虫になることを楽しみにしている。また、知らない子どももその話を不思議そうに聞いている。
- 蝉の声を聞いて「夏だね。」と発言する子どもがいる。
- 虫に対して自分で疑問に思ったり、気付いたりすると、保育士や友達に話をする。
- 生き物を怖がる子どももいる。
- 虫を手でつぶしたり、足で踏みつけている小さい子どもたちを見ると「かわいそうやろ」と教えたり、保育士に伝えに来たりする。
- 虫をつかまえたら、返すこと（逃がすこと）を教えられている。

この単元で

〈2年生〉

- 身近にいる生き物と触れ合い、飼育する活動を通して、生き物が育つ環境やその変化に関心をもつ。そして、親しみをもって大切に世話をすることで、生き物は自分たちと同じように生命をもち、成長していることに気付く。
- ◎ 園児たちと触れ合うことで、自分の年長さんの頃を思い出し、お世話する喜びを感じ取るとともに自分の成長の姿に気付くことができる。

〈保育園児〉

- 教室で席につくという体験や保育園と作りが異なる小学校のトイレを体験することを通して、就学前の不安を少しでも取り除くことができる。
- 小学生の発表を聞いて、生き物について、興味をもつことができる。

このような指導で

指導にあたっては、まず、つかむ段階では「生きもの大すきⅠ」での体験を想起させ、生き物がどのような場所にいるかを話し合い、生き物を探しに行く場所に見通しをもたせて、生き物を探しに行く。そして、どんな虫がどんなところにいたか、どんな方法でつかまえたかや飼育の仕方を話し合う。また、自分で見つけた喜びをもとに、生き物を飼育する意欲につないでいき、生き物を飼育する。

次に、ふかめる段階では、生き物の様子や特徴を園児たちに向けて発表することを知る。発表する生き物は、カタツムリ、カブトムシ、キリギリス、バッタ、コオロギ、ヤゴ、オタマジャクシ、ザリガニ、カマキリの9つの生き物を発表する。その際に、自分たちの年長時代に年下の子にどのようなことをしてあげていたかを振り返らせる。そして、園児たちに分かりやすく発表するために紙芝居やペープサート、実物を見せるなどの自分なりの表現方法を考えさせて、発表の準備をする。それから、リハーサルをして、良い点や課題点を見つけさせて、より良い発表会に向けて話し合いをさせる。

さらに、ひろげる段階では発表会を設定し、園児たちを教室に連れて行ったり、見る順番を教えたりして、お世話をして自分たちの発表を見せる。園児たちの感想や園の先生の感想を聞いて、満足感をもたせる。

最後に、活動や発表会の振り返りをして、活動したことに対することで自分の成長を感じ取らせ、次の活動への意欲につながるようにする。

3 単元目標

- 身近な生き物に関心を持ち、生き物を探したり、育てたりしようとする意欲をもつことができる。
【関心・意欲・態度】
- 生き物の世話の工夫や世話をした感じたこと、生き物の成長を自分なりの方法で表現することができる。【思考・表現】
- 育てている生き物の成長や変化の様子に気付くことができる。【気付き】
- ◎ 自分なりの方法で表現し、園児達対して分かりやすく、発表できるようになった自分の成長に気付くことができる。【気付き】

4 指導計画（全時間）

次	時	主な活動内容	教師の支援	評価の観点
へ 二 次 つ か む	1	○ 生き物の見つけ方やとり方を話し合う。	○ 生き物が見つかりそうな場所を出させて探すときの見通しを持たせる。	○ 生き物が見つかりそうな場所やつかまえ方を考えたり、気付いたりすることができる。【気付き】
	2	○ 生き物をとりに行く。	○ 子どもが安全で自由な活動ができる場所を選定しておく。	○ 生き物を探したり、触れ合ったりすることを楽しむことができる。 【関心・意欲・態度】
	3 ・ 4	○ 生き物をとりに行って気付いたことや飼育のし方を話し合う。	○ すみか作りやえさを図鑑で調べたり、お互いの知識を出し合ったりして、飼育の仕方を考えさせる。	○ 生き物はそれぞれ生活する場所や食べるえさがちがうことに気付くことができる。【気付き】
	5	○ 飼育して気付いたことを話し合う。	○ 生物の変化を話し合わせる。	○ 生き物の育て方を考え、育てる環境を工夫して大切に育てることができる。 【気付き】
	へ 二 次 ふ か め る	6	○ 生き物を育てて分かったことを園児たちに発表することを知り、発表方法を考える。	○ 園児たちに発表することを考えさせながら、どういうことを発表したいのかを考えさせる。
7 11		○ グループごとに発表会の準備をする。	○ 生き物の育て方や体のつくり、動きについて、紙芝居やペープサート、実物を見せるなどの表現方法を考えさせる。	○ 友達と協力して発表の準備をすることができる。 【関心・意欲・態度】
12		○ 発表会に向けて、話し合いをする。	○ 良い点や課題点を見つけさせて、発表会に向けて話し合いをさせる。	○ 他のグループの発表に関心をもって聞こうとしている。 【関心・意欲・態度】
へ 三 次 ひ ろ げ る	13 本 時	○ 保育園児を小学校に招き、発表会を行う。	○ 保育園児に席についてもらう。 ○ 園児たちが、長い時間席についている状態をなくすために、2グループの園児が2つの教室（発表会場）をまわって2年生の発表を聞く。	○ 意欲的に発表しようとしている。 【意欲・関心・態度】 ◎ 園児達のことを考えながら発表することができる。【思考・表現】

	14	○ 活動や発表会の振り返りをする。	○ 発表会をした感想や気持ちを考えさせて、カードにまとめさせる。	○ 発表会を通して、気付きや思いを絵や文に表すことができる。【思考・表現】
--	----	-------------------	----------------------------------	---------------------------------------

5 本時 平成21年10月19日(月) 5校時 12/14

2年○組教室 2年○組教室

6 本時の目標

- 大切に育ててきた生き物について、その生き物の生態や関わってきた気持ちを表現し、園児達に発表することができる。
- ◎ 園児達に分かりやすく、発表する声の大きさや発表の仕方を考え、意欲的に発表することができる。

7 本時指導の考え方

子どもたちは、これまでに、自分たちが育ててきた生き物で気付いたことやわかったことを園児達に伝えたいという思いから、8グループによる発表会を設定した。そして、発表会で伝えたい生き物を選び、紙芝居やペープサート、実物を見せるなどの表現方法を使って、グループごとに準備をしてきている。

本時指導にあたっては、まず、小学校に園児を招き、教室で初顔合わせをして、教室の席を園児に教えたり、あいさつをしたりして、交流をもたせていく。

次に、発表の注意点を確認して、次のような手順で発表会を行う。

- ① 教室の机に座った園児たちに、2年生がプログラムの説明を行う。
- ② 2年○組の教室で発表する2年生が、園児たちを2年○組の教室へ連れて行く。
- ③ 発表は、1グループ3分で行う。(4グループ12分)
- ④ 前半の発表が終わると、2年生が園児を次の発表場所に連れて行く。
- ⑤ 発表は、1グループ3分で行う。(4グループ12分)
- ⑥ 2年○組で発表した2年生と園児は2年○組の教室に戻ってくる。

1つの教室は、4グループの発表にする。1つの教室の発表時間をそろえるために、12分以内で発表が終わるように、一つの班の発表時間は3分程度にしておく。また、実物を見せるグループは、ビニールシートやタオルを用意して、園児達が触ることができる時間を考慮する。発表内容は、どんな場所に住んでいたり、どんなえさを食べたり、どのように動いたりするかを発表する。生態や食べ物、生息地については、絵や実物を見せて、体の動きは、ペープサートや動作化を取り入れて、発表方法を工夫させておく。そして、発表後に、園児たちを2年1組の教室に集める。

最後に、活動や発表会の振り返りをして、感想を発表させる。さらに、園児達や園の先生におもしろかったところやすごかったところなどの感想を聞き、活動したことに対する満足感をもたせる。そして、自分の成長に気付き、次の活動への意欲につながるようにする。また、来てくれた感謝の意味をこめてメダルを作り、今後の交流の意欲へつなげる。

8 準備

- 発表の材料
- ビニールシート
- タオル

9 展開

学習活動	教師の支援 (◎…幼年 ○…生活科)
<p>1 園児を招き、今日の発表会の内容を説明する。</p> <p>○ 本時のめあての確認をする</p> <p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>はっぴょう会をして、生きものについてわかったことをつたえよう。</p> </div>	<p>◎ 2年生に園児を座る席に案内させることで、年長者としての自覚をもたせる。</p>
<p>2 グループごとに発表をする。</p> <p>(1) 発表する際の注意点を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ はっきりと大きな声で言うこと ・ 絵や写真の見せ方を工夫すること <p>(2) グループごとに発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>発表内容の例</p> <p>①カブトムシ…幼虫は土の中で育って、成虫になると土の外に出てくる。</p> <p>②カタツムリ…人参を食べると、オレンジのうんちをする。</p> <p>③ヤゴ…挿し木をしておくと、その木にとまって、トンボになる。</p> <p>④オタマジャクシ…後ろ足が出てきて、前足が出てカエルになる。</p> <p>⑤バッタ・キリギリス…後ろの足は曲がってジャンプしやすくなっている。</p> <p>⑥ザリガニ…隠れる場所をつくっておく。</p> <p>⑦カマキリ…生きたえさしか食べない。</p> <p>⑧コオロギ…羽をこすりながら、音をならす。</p> </div>	<p>○ 発表の注意点に気をつけさせながら発表させる。</p> <p>◎ 園児を飽きさせないために、2つの教室で発表させる。</p> <p>◎ 発表が終わった教室から次の教室へ移動するとき、2年生が園児を並ばせて、教室に連れて行かせる。</p> <p>○ 実際に生き物を触らせるときに、ぬれてもいいように、ビニールシートを敷いておく。</p> <p>○ 生き物を触ったあとに、手を拭くことができるタオルを置いておく。</p> <p>○ 教室に入るときは後ろから入らせて、出るときは前から出させて、混乱をさける。</p> <p>○ 12分ごとに合図を鳴らして、2つのグループが一緒に発表を終わらせるようにする。</p> <p>○ 発表している子どもたちのペープサートや動作化、絵が園児たちに見えるかどうかに関心させる。</p>
<p>3 本時の振り返りをする。</p> <p>○ 自分たちの感想を発表する。</p> <p>○ 園児たちや園の先生からの感想を聞く。</p>	<p>○ 発表会を終えて、発表の注意点などを中心に振り返りをさせる。</p> <p>◎ 園児たちに、すごかったところやおもしろかったところを発表してもらう。</p>